

## 地域とともにある学校づくり ～コミュニティ・スクールをつくる～

### 1 コミュニティ・スクールに至る道



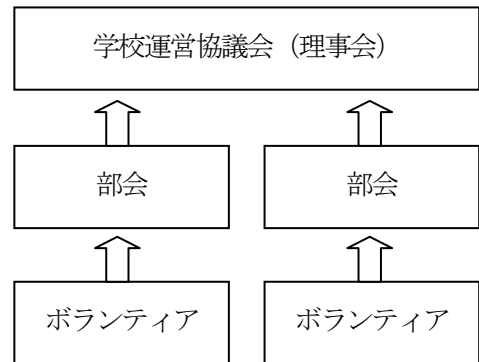
#### (1) 「子どものため」を合言葉に

- ・学校支援ボランティアの発想……活動を通して学校を理解
- ・多くの人が活動できるように……小グループの部会
- ・これまでの組織を生かす……ボランティアに位置づけ
- ・誰でもわかる仕組み

「元からあるもの」を生かす

#### (2) メンバー決定

- ・ほぼ決まっている人  
地域団体の代表, PTA役員  
元PTA役員, 公募委員
- ・年度ごとに決まる人  
各ボランティアから選ばれた人  
PTAの部会から, 公募委員
- ・ボトムアップ型の組織で  
ボランティアと学校運営協議会をつなげる
- ・学校運営協議会（理事会）  
各部会の部長が集まる



#### (3) 活動の決定

- ・地域・保護者への説明 「何をしたらいいの」「例を出して」
- ・ともかくやってみよう。そこから課題を見つけよう。

### 2 コミュニティ・スクールのスタート

#### (1) 共同・協働

- ・共同事業……主に休業土曜日
- ・共同授業……各学年
- ・活動を通して学校教育に参画→学校教育を理解

#### (2) 会議はみんなで

- ・年間3～7回の会議
- ・教職員と共同で運営…入り方はさまざま
- ・一度に集まったほうが、事務的な負担は少ない

### 3 コミュニティ・スクールが生み出したもの

#### (1) 広がるボランティア

- ・見守り活動（朝夕の登下校指導）
- ・図書館ボランティア
- ・授業支援ボランティア

#### (2) 活動を通して学校を理解

- ・一緒に活動すれば、みんなが楽しい。学校のことがよくわかる。
- ・学校の取組がわかった人たちによる学校評価
- ・これからの学校に必要なことがわかり、学校づくりにつながる。

#### (3) 学校が好きになる 学校が誇りに

- ・地域の人どうしが仲良く。地域の人と保護者とが仲良く。
- ・学校が好きになる。学校が好きな地域→学校が好きな保護者→学校が好きな子ども
- ・学校が好きな子どもは学力が高い。

#### (4) 教員公募

- ・3年以上の経験をもつ教員が対象
- ・学校運営協議会をもつ学校に権利

### 4 コミュニティ・スクールのこれから

#### (1) どこでもできるように

- ・京都市に175校・園のコミュニティ・スクール（京都市の61%）
- ・どこの学校・園にもあるボランティアを組織し直す
- ・ボランティアと学校運営協議会をつなげる
- ・教育委員会の支援は必要

#### (2) 誰でもできるように

- ・やってよかったと思うことを広げる……メリットをつくる
- ・誰でもができる組織に…組織の固定化を防ぐ
- ・地域の実態、学校の実態に応じたコミュニティ・スクールに